

地域ケア圏域会議 実績報告（令和6年度）

	圏域	開催日	テーマ	圏域課題
1	第1包括	令和6年 11月27日	「災害時に自主避難が難しい世帯の支援について」	個別避難計画等を有事の際に備えて平時より活用していきたいが個人情報問題があり未実施。 福祉事業所において BCP 計画作成や防災訓練の実施はしているが対応の統一はされていない。
2		令和6年 1月16日		
3		令和6年 3月13日		
4	第2包括	令和6年 7月4日	「地域づくりにおける介護サービス事業所の役割」	まちづくり協議会構成員の負担軽減や「まちづくり」に対する意識変革と参加の促進。人生の自己決定が行えるように情報発信。認知症を地域でケアするサポートシステムの構築。
5		令和6年 10月24日	「ACP を住民さんに我が事化させる為、専門機関はどうすればいいのか」	エンディングノートに終末期医療の内容は含まれているものの、救急搬送時の意思表示に活用するには適さない。
6		令和7年 3月13日	「話しづらいことを話しましょう いつか当事者になる私へ 人生会議のお話」	サロン代表者へ最期の在り方を模索する「もしバナゲーム」を実施。死をタブー視される、人前で語ることに嫌悪感を抱くという方も一定数みえる。 平等に訪れる死に対して可視化して周知啓発。
7	第3包括	令和6年 8月8日	「高齢者の移動手段について」	外出希望は病院受診が多いが、乗り合いタクシー「シティモビすずか」は停留場が病院にない。「お出かけ支援事業」は自宅から自宅で助かるという声がある反面、近隣への利用は制限がある。ニーズに応じた運営体制の構築、運営費用、人材の確保が必要。
8		令和7年 2月28日		

9	第 4 包括	令和 6 年 11 月 14 日	「地震等災害発生後の地域連携について」	個別避難計画書の作成を個人情報が必要で拒否される方がみえる。また避難場所まで自力での避難は困難と諦めている方も多いが要援護者台帳の時も同様のことがみられた。地域の避難体制の仕組みづくりとして個別避難計画の作成の必要性を周知していく。
10		令和 7 年 3 月 6 日	「地震等災害発生後の地域連携について②」	避難場所の把握が出来ていない方が多い。避難場所へ徒歩で非難する訓練を実施。避難所まで辿り着けない方も多く、避難することを本人が諦めている方もあり、避難を拒否されると救助者が危険になることも想定できる。
11	第 5 包括	令和 6 年 8 月 30 日	「身寄りが居ないが日常生活は支障なく過ごされる高齢者、地域での緊急対応の在り方」	身寄りのない方の身元保証について、ガイドラインは完成したがうまく機能していない。独居など身寄りのない方の救急搬送時の対応の検討が必要。
12		令和 7 年 3 月 13 日	「玉桜地区における防災対策について～関係機関の連携方法を検討する～」	避難所を把握されていない方が多い。末広地区は飯野小と桜島小が避難所であるが地区外にあたる飯野高校と創徳中も了承をもらっており避難先が複数ある。連絡ツール含め、地域住民、包括、各関係機関や行政との連携方法が決まっておらず防災危機管理課や長寿社会課とも協議を行い、有事の際のハブ機能の構築が必要。
13	第 6 包括	令和 6 年 7 月 19 日	「災害時における地域と専門職の連携について」	有事の際に地域住民に円滑に支援が行えるように地域と各機関の役割分担や連携方法等の支援体制を整備。
14		令和 7 年 3 月 10 日	「災害時における地域と専門職の連携について②」	防災マニュアルの作成や防災訓練は実施しているが、認知症や介護を要する方の具体的な想定がない。鈴鹿市と地域の取組みを交えながら、それぞれの役割や動きの検討が必要。

〈課題に対して行政へ期待すること〉

【移動手段】

- ・公共交通網の整理
- ・地域における移送システムの在り方

【終末期医療】

- ・終末期医療に関する啓発活動(死を可視化)。

【地域の支えあい】

- ・定年退職後の地域における活動の場作り
- ・地域で支える支援者の育成

【身元保証】

- ・身元保証に関する仕組み

【防災】

- ・災害時の個人情報取り扱いの指針
(個別避難計画を含む)
- ・災害時に高齢者でも取得できる情報収集方法
- ・現実的に避難可能な避難場所の設置と住民への周知
- ・避難所の整備、備品の確保
- ・各組織の役割や連携方法の明文化
(防災危機管理課・長寿社会課との協議)
- ・避難所開設訓練のサポート